

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和4年1月21日

事業所名 てくてく教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			
	2	職員の配置数は適切である	○			人手が足りない場合は、児童発達支援事業の職員からも協力を得ている。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○	段差がある個所は、すのこで対応している。	身体的に配慮が必要な子どもの利用がある場合は、バリアフリーへの見直し修繕をしていきます。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○		ガイドラインの読み合わせをして、PDCAサイクルを確認して、職員が常に意識するようにしている。	日々、振り返りをして、次回の保育に繋がれようように努力していく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		結果を検討し合い、改善策を考えて、対応できるようにしている。	結果表で、保護者が分からないの意見があることを見直し、保護者に対する説明を丁寧に実施して理解してもらうようにしていく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		自己評価表をホームページで公表している。	保護者にホームページで公開していることを、毎月 の 便り 等 で お 知 ら せ し て 周 知 す る よ う に す る 。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		外部評価1年に1回を実施している。	運営評価委員からの評価に基づき、助言いただいたことを職員間で検討し、改善に繋げている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		コロナの関係で、島外出張は実施できない現状だった。療育支援事業を利用して研修会を実施している。	講師を招いての、ムーブメントや言語等についての専門的な支援を受けている。園での事例を元に、園内研修を実施し、職員間の共通理解を図る。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		相談支援専門員や職員間の相談の元、支援計画を作成している。	ニーズや課題を考慮しながら関わる中で、新たな課題が出てきた時等は、保護者や相談専門支援員と面談をして支援計画の立て直しをしている。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		MEPAのツールを利用して、子どもの発達を確認している。	研修会でMEPAを詳しく学び、利用頻度をあげて、子どもの発達理解に努め、支援をしていく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		チームで話し合いながら、プログラムの立案をしている。	事業所全体としてのプログラムも、職員間で話し合い立案に努めるようにしている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		子どもの成長段階やクラスの状態に合わせてプログラムを立案している。	固定化していない活動や新しいプログラムがあることを踏まえて、研修会で学んだ活動等を多に取り入れていくようにする。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		平日・長期休暇に合わせて計画を立案し、支援を行っている。	長期休暇にしかできない活動を取り入れて、子どもたちが楽しめる工夫をしている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		学年が違うクラス運営なので、時間差で活動を行ったり、個別で支援をしたりができるように作成している。	自由遊び・課題遊び等、学年の違いや子どもの興味関心や発達の状況に応じて、サービス計画作成に努めている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		活動の流れや担任・補助の役割などを確認し合っている。	前日から打ち合わせをしたり、教材の準備をしたりをして、職員間の共通理解を図るように努めている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		終了後には、個々の振り返りをして共有する。	改善点などを話し合い、次回に繋がれるように努力している。報告・連絡・相談を忘れないようにする。
17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		担任が日々の記録を取り管理者に提出している。	子どもの成長を確認したり、支援の在り方を振り返り、改善に繋げていく。	
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		中間評価やモニタリングで確認している。		

	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っている	○		
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		幼稚園・保育園の担任・行政福祉係・療育担任・児童発達支援管理責任者・相談支援専門員・保健師等関係者が参加している。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	○		学校の行事予定表を参考にしながら、活動の調整等を行っている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		現在は医療的ケア児の通所はありません。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		連絡会を実施して、情報を共有し、支援に繋げている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		今までに、福祉サービス事業所に移行した例がない。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		今年度はコロナの関係で、研修を受けることができなかったのが現状
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		児童クラブとは同じ建物で過ごしているため、戸外で遊ぶ機会がある。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	○		現在までに会議への案内はない。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎時や連絡帳を通して話し合いができています。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		今年度はコロナの関係で、実施することができなかった。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		利用開始時に説明を行っている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		連絡帳や送迎時等を利用して、保護者からの相談に応じて助言や支援を行っている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		保護会はないが懇談会を毎月行うことで保護者間の繋がりができるように配慮した。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		現在は苦情はない。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		月1回の事業所便りを発行し、クラス単位でも便りを発行して情報を発信している。
	35	個人情報に十分注意している	○		個人情報遵守については、保護者にも伝え、職員間でも共通理解を図っている。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		連絡帳での伝達が難しい保護者には、直接伝えるようにしている。

	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	通園事業連絡協議会が地元開催の時は、地域住民への呼びかけをして、講演会への参加があった。	子どもの行事等に住民を招待する等の機会はないが、今後必要かどうかを検討していく。住民に事業所のことを知ってもらい、理解してもらうことは必要だと感じている。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している		○	職員には周知している。	保護者にはマニュアルがあることは知らせているが、内容を詳しく周知できていないので、説明できるように改善していく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている		○	各クラスで訓練を実施している。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている		○		マニュアルの読み合わせをして、詳しく周知できるように研修の機会を増やしていくようにする。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している		○	身体拘束や体罰などについては、職員間で共通理解をしている。拘束や体罰が起きないような支援を心がける。	現在までに、身体拘束をしなければならない例がなかったため、児童発達支援計画に記載することがなかった。今後検討していかなければならない課題である。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○	現時点ではアレルギーの子どもはいない。	アレルギーの子どもが通所してきた場合は、関係医療機関との医師との連携を図るようにしていきます。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		○	作成はしている。事故もなく過ごせている。	職員間で共有できていないので、記載の仕方を共通理解していきたい。